

はじめに

近年同様、2007年にもまた世界中で多くの災害が発生しました。バングラデシュで発生したサイクロン、シドルによる暴風、洪水は、この年最多の死者数をもたらしました。また中国や南アジア諸国で起こった洪水により、非常に多くの人々が影響を受けました。経済被害額の点では、日本を襲った地震が最大となりました。こうした結果、2007年は近年アジア地域が最も深刻な被害を受けた年となりました。他の地域に目を転じると、アフリカ地域では、干ばつ、洪水、疫病のために大きな影響を被りました。アメリカ地域で発生した洪水、暴風は、人的被害及び経済的被害の主な原因となっています。ヨーロッパ地域、特にイギリスでは、異常気温、洪水により多数の人命が奪われ、また多くの被災者を出しました。オセアニア地域では、洪水、暴風に加え、ソロモン諸島における地震、津波の被害を受けました。

自然災害が世界各地で発生し、その重大な被害は、多くの社会、経済、ひいては地球環境に対し深刻な結果を生じています。自然災害の頻度、規模は著しい増加傾向にあるといえます。開発途上国では災害による経済損失額は、対GDP比で大きな数字となっており、かつ全体額として近年急上昇していることから、持続可能な開発への大きな障害となっています。自然災害による被害は、不安定な経済情勢と絡み合っ、開発途上国の発展に負の影響を与える要因となっていることは明らかです。地域別には、過去32年間の統計を見てみると、アジア地域が、世界の中で最も災害による影響を受けた地域であり、世界全体の被災者数の約90%、死者数と経済損失額の約50%以上を占めています。

このように、発展の妨げとなっている自然災害に立ち向かい、効果的な防災メカニズムを構築するためには、過去の災害を分析し、災害の傾向を把握することが必要不可欠となっています。アジア防災センターでは、2007年に発生した自然災害のデータを集め、その傾向を分析して本書を作成いたしました。この冊子が政策立案者、研究者のみならず、様々な開発活動に携わっておられる方々、また草の根レベルで活躍されておられる方々にもご活用いただき、世界の持続可能な開発の一助となることを切に願っております。

2008年3月

アジア防災センター